追憶の山旅

令和元年(2019年)9月 沼尾 利郎

1 石鎚山(いしづちさん)(愛媛県)

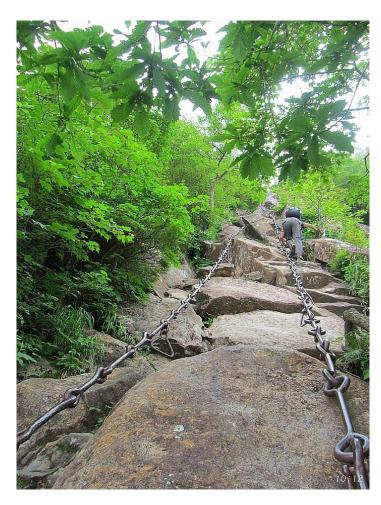


石鎚山

学生時代は、少し長い休みがあると遠くの山へ出かけていました。朝から晩まで講義や実習の日常から離れ、大自然の中を何も考えずに歩くだけで心も身体もリフレッシュされたのです。高校の頃は(当時は禁じられていた)ロック・クライミングの真似事がしたくて近郊の岩山へ行き、アップザイレン(懸垂下降)などで遊んでいたのですが、「岩登り」といえば何と言っても西日本最高峰の石鎚山(1982m)が思い出されます。

日本百名山や日本七霊山の1つである石鎚山は山全体が神と崇められている神聖な山(信仰の山)であり、日本屈指の「鎖場(くさりば)」としても有名です。鎖場は試しの鎖(48m)、一の鎖(33m)、二の鎖(65m)、三の鎖(68m)と全部で4ヵ所あり、ほぼ垂直の石崖を登るのはスリル満点でとても楽しかったのですが、今なら絶対無理ですね(当たり前ですが)。石鎚山の中腹にある横峰寺は四国霊場 第60番札所であり、そこへ向かう道はお遍路さんが転ぶほどの急勾配のため「遍路ころがし」(遍路道の難所)と言われています。

鎖場を登りきった後に断崖絶壁の切り立った岩場を歩いて頂上(天狗岳)へ着くと、すばらしい絶景を堪能することができました。今では一般観光客のために自動車やロープウェイで山頂へ行くこともできますが、ふもとから自力で登り切った感動は何物にも代えがたいものがあります。かつてこの山で修行したと言われる弘法大師空海のように、本当に修行のような山登りでした。



鎖場(石鎚山)

2 霧島連山(宮崎県)



韓国岳

霧島は高千穂をはじめ天孫降臨の舞台として古代史によく登場する歴史ある場所ですが、20 を超える霧島連山の最高峰が韓国岳(からくにだけ)(1700m)です。名前の由来は「霧島市周辺に住み始めた朝鮮人が母国を懐かしんで名付けた」「山頂は草木が生えず人も行かない空虚(から)の国だから」など諸説ありますが、山頂からの眺望は絶

景で天気が良ければ(鹿児島の)錦江湾や桜島、遠く開聞岳も見渡すことができます。また、大きな火口(直径 800m、深さ 300m)や日本一高い場所にある火口湖(大浪池)も有名で、こちらも日本百名山の1つです。私が宮崎の友人と登ったのは 3 月下旬でしたが、山頂では蔵王のような樹氷(霧氷)が見られました。

登山と言えば日本はドイツ、イギリス、イタリアと並んで登山人口の多い国の1つであり、歩きながら多様な植物や多彩な景観を楽しめる、世界的でも特に恵まれた登山環境にあります。最近では「山ガール」もすっかり定着したようですが、カラフルなアウトドア・ファッションを身に着けた山ガールたちに会うと、こちらまでパワーをもらいます。街の中でも山の上でも何歳でも、女子はとにかく元気ですね。

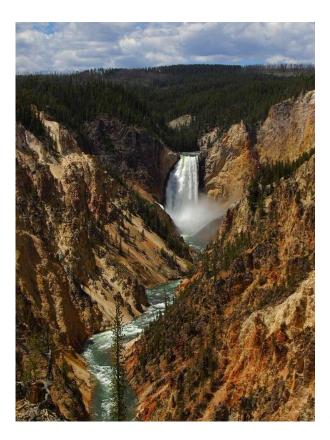
3 イエローストーン国立公園(米国)



イエローストーン

米国ワイオミング州、アイダホ州、モンタナ州に位置するイエローストーンは 1872 年に世界で初めて国立公園に指定されており、さまざまな絶景と野生動物が一体となり米国で最も人気のある国立公園として知られています。1 万ヵ所以上ある間欠泉や温泉、100 を超える滝や美しい渓谷(峡谷)、野生の状態で生息しているオオカミやバッファローなどが 8984 平方 km(四国の約半分)という広大な大自然に点在しており、オールド・フェイスフル(80 分間隔で 40m ほどの高さまで噴き上げる巨大間欠泉)やマンモス・ホット・スプリング(温泉に含まれる石灰分により作られた巨大な棚)、ファウンテン・ペイント・ポット(真っ青に透き通ったアルカリ性温泉の穴)など、見どころは数え切れません。

私は当時暮らしていた中西部(ネブラスカ州)から家族と一緒に車で訪れたのですが (1991 年)、公園内のロッジに連泊して数々のビューポイントを見ることが出来ました。ま たイエローストーンの近くにはグランドティートン、ブライスキャニオン、アーチーズなど 特徴ある国立公園が点在しており、2 週間の夏季休暇中にこれらをまとめて見て回り、 米国の広大さを改めて実感した次第です。



イエローストーン大峡谷

4 後立山(うしろたてやま)連峰(長野県)



後立山連峰

高校の夏山合宿として後立山連峰を縦走したのは、1973 年のことでした。後立山連峰は飛騨山脈(北アルプス)のうち黒部川の東側に連なる山群であり、黒部川を隔てて立山連峰と対峙しています。白馬岳(2932m)、唐松岳(2696m)、五竜岳(2814m)、鹿島槍ヶ岳(2889m)、爺ヶ岳(2670m)、針ノ木岳(2821m)など、それぞれに特徴を持った尾根が山麓にのびており、途中にある「八ッ峰キレット」「不帰(かえらず)ノ嶮」は穂高連峰の「大キレット」とともに日本三大キレットと呼ばれています(キレットとは山の稜線が深く落ち込んだ場所のこと)。山の上部は森林限界の高山帯でハイマツなど高山植物の群生地があり、特別天然記念物ライチョウにも会えて下界とは全く異なる別世界でした。

当時の山岳部ではキスリング(昭和末期まで使われた大型の登山用ザック)に30kg以上の荷物を詰めて1日 7~8 時間も山道を歩くのですから、今思えばよくやったものです。 予定地に着いてテントを張ってからもやることは山ほどあり、夜にはヘッドランプの光を 頼りにラジオ(NHK 第 2)から流れてくる気象通報を聴きながら天気図をつけました。今ではスマホで簡単に気象予報や雲の動きまでわかる時代ですから、まさしく「昭和は遠くなりにけり」という感じですね(ちなみに天気図を描く問題が試験に出ないので、気象予報士のほとんどは天気図が描けないそうです)。

「自然に対峙し自分に対峙することで、自分の知らない自分に会える」「(登山も人生も)不要なものは手放して軽やかに生きる」「(登山も仕事も)与えられた状況の中でベストを尽くす」など、山から学んだことはたくさんあります。山が人を成長させる(させてくれる)からこそ、人は何度でも山に登るのでしょう。



後立山連峰

(宇医会報 2019年10月掲載)